



自宅周辺の『ハザードマップ』を見たことがありますか？

春から暑い日が続いていますが、今年はエルニーニョ現象発生の可能性も高いと言われ、暑さ対策とともに集中豪雨や台風など自然災害への備えも必要ですね。ところで『ハザードマップ』をじっくり見たことはありますか？自宅周辺の地理的特徴と災害リスクを把握して、避難場所、避難経路は事前に確認しておきましょう。今後、住宅を購入予定の方、引っ越しを検討されている方も、是非、チェックしてみてください。



【ハザードマップとは】

地震、洪水、土砂災害など、過去の災害データや地理情報をもとに、それぞれの地域で起こる災害を予測し、被害範囲を地図にしたものです。自然災害による被害を軽減したり、防災対策に活用したりするために、各地域で災害ごとに作成されています。「防災マップ」「リスクマップ」と呼ばれるものもあります。

【ハザードマップ入手方法】

- ①市区町村役場の窓口やホームページ
- ②国土交通省が提供する「ハザードマップポータルサイト」



各家庭に配られる紙媒体での「ハザードマップ」、ひと目見てゴミ箱行きになっていませんか？災害時は通信障害等でインターネットが繋がらないこともあります。防災グッズと同じ場所に保管しておくのもひとつの方法ですね。



【ハザードマップの見方】

では「ハザードマップポータルサイト」でJTB本社の「洪水」「高潮」リスクを見てみましょう。

- ①国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」を開きます。 <https://disaportal.gsi.go.jp/>
- ②「重ねるハザードマップ」を選択します。
- ③住所を入力し、「洪水」「高潮」を選択します。住所の横の 🔍 をクリックすると色分けされます。

重ねるハザードマップ ~自由にリスク情報を

検索: 東京都品川区東品川二丁目3番11号 JTBビル

透視率: 25%

洪水浸水想定区域 (想定最大規模)
河川が氾濫した際に浸水が想定される区域と水深 (想定し得る最大規模の降雨 (計画規模を上回るもの))

水深	色
20m ~	ピンク
10m ~ 20m	オレンジ
5m ~ 10m	赤
3m ~ 5m	薄赤
0.5m ~ 3m	黄
0.5m ~ 1m	薄黄
~ 0.5m	淡黄
~ 0.3m	最淡黄

注意事項
このシミュレーションの実施にあたっては、支川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません (ただし、東京都が管理する河川のみ内水による氾濫を考慮しています) ので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合があります。なお、東京都の公表図面では浸水深0.1m未満の区域は着色されていないため、本サイトにおいても同様の表現としております。

出典: 国土交通省「重ねるハザードマップ」



マークをクリックすると
近くの緊急避難場所
が確認できます。



出典：国土交通省「重ねるハザードマップ」

掲載データに関する留意事項

すべての情報から選択

選択情報のリセット

指定緊急避難場所

高潮

解説
凡例



表示
指定緊急避難場所

洪水

解説
凡例



河川が近くにない地域や都心でも、排水が原因となる「内水氾濫」が起こるケースが増えています。同じ「ハザードマップポータルサイト」の「わがまちハザードマップ」から自治体がインターネットで公開しているハザードマップを閲覧することができます。お住いのエリアのハザードマップを確認し、ご家族で避難経路・避難場所の確認をしておきましょう。

【ハザードマップを役立てる】

- ・勤務地や自宅周辺の避難場所・避難経路を確認しましょう。
(できれば一度実際に歩いてみるのがおすすめです。)
- ・これから引っ越しされる場合は、より安全な場所を選びましょう。
- ・災害が想定される地域にお住いの方は、家の基礎部分を高くする、周辺を塀で囲む、家の基礎・土台・床の補強をするなど、事前準備をすすめましょう。
- ・火災保険は補償が十分か見直しをおこないましょう。
(必要な補償については、TAC JTB営業部までご相談ください。)



【自分でできる災害への備え】

家の外の備え (大雨が降る前、風が強くなる前に行いましょう)

- 窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要に応じて補強する
- 側溝や排水溝は掃除して、水はけを良くしておく
- ベランダに置いている植木鉢など、危険物を家の中に格納する



家の中の備え

- 非常用品の確認 (懐中電灯・携帯用ラジオ・乾電池・救急医薬品・非常用食品・貴重品など)
- 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る、飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておく
- 断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなど生活用水を確保する

避難場所の確認・非常用持ち出し品の用意

- ハザードマップ等で避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておく
- 家族で避難場所や連絡方法を話し合っておく
- 非常用持ち出し品を用意しておく (リュックサック・飲料水・非常用食品・常備薬・マスク・生理用品・現金・健康保険証・下着・タオル・寝袋・雨具・懐中電灯・ラジオ・ティッシュ・ヘルメット等々)



【火災保険のお得な情報！】

★TACではJTBグループ団体扱**火災保険**のお取り扱いがございます。
ご相談・お見積りのご依頼は、TAC JTB営業部のホームページよりどうぞ！

→ → →



東京海上日動あんしんコンサルティング (TAC) JTB営業部

東日本 フリーダイヤル：0120-981-756
西日本 フリーダイヤル：0120-860-283

E-mail：jln_group_higashinihon@web-tac.co.jp
E-mail：jln_group_nishinihon@web-tac.co.jp

【受付時間】 9:30～17:00 土日祝休